

平成30年度 第6回人権教育学級

日時：11月8日（木） 9：50～11：50

場所：別府市役所 5F大会議室

演題：外国人と人権

～別府温泉が育む多文化交流&多言語支援～

講師：べぷはち Beppu Rainbow Society

多文化共生マネージャー 神 智子 さん

●講演概要

1 序章



<まずは、ストレッチ体操で
心も体もリフレッシュ>

- ・自己紹介
- ・きっかけ・・・市報SOSの戸をたたいた。
(外国のお客様の案内)
- ・別府市役所の国際交流室に勤務を始めた2006年に、別府には、たくさんの外国人が住んでいるが、その方たちへの支援ができないかという思いで、交流活動を開始した。
- ・2012年に退職し、「べぷはち Beppu Rainbow Society」を立ちあげる。

2 べぷはち Beppu Rainbow Society の ミッション・ビジョン・バリュー

○ミッション：困りを見逃さず、寄り添い、共に未来を創造できる仕組みをつくる。
多文化共生 → 多文化共創へ

○ビジョン：多文化が心地よく入り混じる町づくり
縁あってこの町に集う人たちの皆が笑顔で暮らせる社会

○バリュー：受け入れ、湯で癒やし、湯に流す



<講師の 神 智子さん>

3 温泉文化が生み出す地域交流

○大地の恵みを皆で分け合う文化 “裸のお付き合い” → 湯船の中では昔から多文化共生・ボーダーレスな社会が存在する。

○受け入れ、湯で癒やし、湯に流す文化 → 多文化の受け入れ

○おもてなしの文化 → 旅人をねんごろにせよ



ここから生み出される地域交流

4 地域との多文化交流活動

お花見

毎年、4月の第2土曜日か日曜日に別府公園で盛大に行っている。世界各国の料理も並ぶ。この写真の時は、市内M中学校の生徒が自主的に参加してくれた。申し込みの必要はない。

七夕

いろいろな国の言葉でいろいろな願い事を短冊に書いて七夕かざりを作る。市内の商店街にて実施。

新春福笑い

年明けの第2週くらいの土曜日に行っている。カルタとり大会も行う。カルタは手作りで、日本語の勉強に役立つよう工夫している。

節分

節分の日が一番近い土曜日か日曜日に別府公園で行っている。

留学生による 母国紹介

セネガルの学生が自分の国のことを話してくれた。また、リベリアの学生が内戦や難民キャンプのことを話してくれた。定期的を開催している。

ベトナム文化 の紹介

ベトナムのバランストンボを作って飛ばした。このトンボは、バランスがよく鉛筆の芯に留めても落ちない。

料理教室

料理教室は、10年以上続けている。写真にあるのは、エジプトの料理。最初に作ったのは、マレーシアの料理で、上人ヶ浜公園にあるキッチンで作った。年4回実施している。材料費のみ。



<講師の話聞く学級生>

5 熊本・大分地震 平成28年4月16日発生時の状況と災害時の支援

・別府アリーナに避難する外国人

津波が怖いので、上に逃げろ、上に逃げろとたくさんの外国人が別府アリーナに避難してきた。だれが市役所の人なのか、誰が支援する人で誰が支援される人なのか分からない。そんな中、特に、タイや中国、韓国の学生さんたちが頑張ってくれた。観光で一時的に別府に来ている方の不安は大きく、その方たちのサポートを行った。一段落して別府駅に行ってみるとこちらも大変なことになっていた。

BIAD

この震災のあとに、ボランティア団体・ビアドを立ち上げた。**BIAD**は、別府市災害時通訳ボランティアの略である。現在、100数名の登録があるが、増えるといい。

・災害時多言語支援ワークショップ

年3回行っている。(写真を示しながら)この時は、60名が参加した。

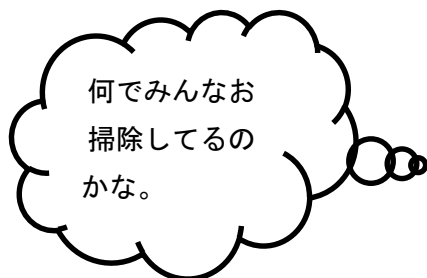
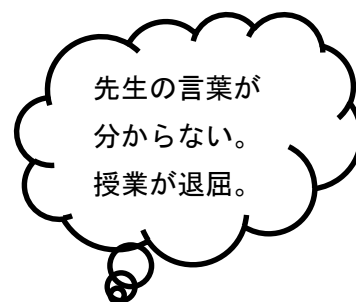
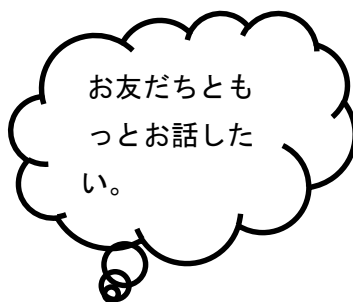
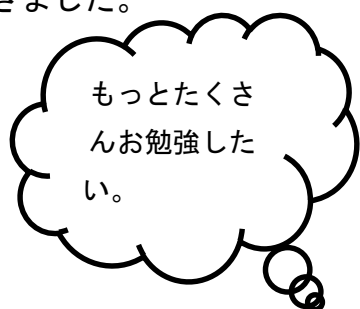
災害の時は、難しい言葉が飛び交うので、難しい言葉をできるだけやさしい日本語で表したり、災害時に出てくるであろう言葉をそれぞれの国の言葉に訳していったりした。

・防災まちあるき

(写真を示しながら)スタートは別府駅で、不老泉と別府アリーナを避難場所として、外国人がどのようにしたらたどり着きやすいかを検証した。

6 別府に住んでいる外国人(Mちゃん)の困りと地球っ子わくわく広場の取組み

○昨年末に出会ったMちゃんは、お父さんの仕事の都合で家族と一緒に別府に越してきました。



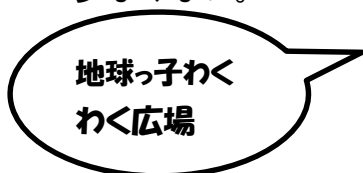
Mちゃん

- ・日本のことが分からない
- ・日本語が分からない

<気にかけてあげないといけないこと>

- * フロー情報 . . . だれもが知らなくて今聞いた情報
(例えば、10日後は、入学式です。 . . .)
- * ストック情報 . . . その地で長く生活している人なら分かる情報
(例えば、入学式にはきれいな服を着る。)
今来た人にはこの情報が0ということになる。

- ・このMちゃんと他の子にも、日本語の支援をしている。小学校の国語の時間に集中的に日本語の学習を行っている。
- ・定住者の困りは大きいですが、支援が薄いのが現状である。Mちゃんのような子どもも少なくない。



子どもたちの居場所づくり・仲間づくりを目的に、遊びを通して交流活動を行っている。外国の子どもたちや日本の子どもたちが集まる。毎週土曜日に行っている。

7 支援の広がり

<市内の保育園に見学に行った時の話>

- ・ある女の子は、お母さんが来ると、「お母さん、しゃべらんで」と暗い顔になる。しかし、決してお母さんのせいではない。みんなが母国に誇りがもてるようにという願いから、この保育園では、「国際交流ママの会」を立ち上げた。
- ・イスラムの子どもが保育園に入園してきたので、ハラルの料理をお昼に出したいという園長先生の取組みが素晴らしい。最近では、ハラルのものを売っているところがある。

○最後に、地球っ子わくわく広場の交流の様子を動画で鑑賞した。子どもたちの生き生きとした笑顔が印象的だった。

●班の話し合い

2年半前の地震の時の状況を踏まえ、外国人(学生)の避難場所について、質問がありました。それに対し、神さんは、次のように話されました。

「避難場所の情報は公開されているが、深刻な災害になると仮の避難場所も設定される。情報はいろいろあるが、一番頼りになるのは、隣のおじちゃんやおばちゃん。だからこそ、地域の絆を深めてほしい。」



<質問する学級生とそれに答える神さん>



<班での話し合い>

- 言葉が難しい中で、対話力、人間力も必要と感じました。また、英語以外の言葉も今後覚えていく必要があると思いました。
- 普段過ごす中で、実は外国人が困っているのかもしれないということを考えながら行動していきたいです。
- 英語が話せないためにコミュニケーションをとりにくいけれど、このような活動でコミュニケーションの場を設けることができます。

○外国の子どもたちや親が少しでも分かりやすいようにと、学校やボランティアの工夫や苦勞、支援があっていることを私たちも知っておかなければいけないと思いました。

○子どもたちが多文化を理解し、受け入れられるように親も声かけをしていく必要があると感じました。

○別府市は、外国の方が多いということに驚きました。しかし、どう接してよいか分からないことが多い。今日の話聞いて、外国の方と積極的に交流することが大切だと思いました。

○食べ物や文化の違いからくる困りがある。今日の話で、つながりや交流の大切さを感じました。留学生も多いが、住み続けている人も多いので、ボランティア行政の支援を増やすことが必要だと思いました。

- 英語はしゃべれないが、よく声をかけられることがあり戸惑います。別府市は、外国の方が多いためPTAの活動を通して支援していきたいです。
- 災害時の支援について、熊本・大分地震の際に外国の方が困っていたということは知らなかったです。体育館や公民館だけでなくホテルなども避難場所にしていただけたらと思います。また、避難した後の情報発信の仕方も工夫が必要です。
- 別府人として受け入れ側の対応が市民全体に広がってほしいと思いました。
- 別府に来て思うことは、坂が多いことと、外国の方が多いいいことです。外国の方に話しかけられることも多いです。身近な交流から始めていこうと思います。
- 災害時の際にも外国の方にも情報が伝わるような支援の手が必要なのではと思いました。
- このようなワークショップがあることを知らなかったので、まずは、お花見から交流に参加してみたいと思います。
- 多文化交流や多言語支援等の場があることは知らなかったです。幼稚園生や子どもは馴染みも早いですが、大人の支援や言語コミュニケーションには難しさがあります。別府には、海外の方が多いためサポート支援があることを知ってもらい、お互いの交流を深めて日本のことをもっと知ってもらえたらいいと思います。
- 学生や外国の方は、困っている点がないように見えていた。また、仕事で来られている外国人の困りを分かってあげていないことに気づかされました。
- たくさんの外国の方がいる別府。普段、あまり関わることもなく、「べぷはち」のような団体があるのも知らなかったです。この機会に多文化交流をしてみたいと思いました。
- 外国人の支援や交流があることは知らなかった。お花見とかに参加してみたいし子どもにも参加させたい。子どもたちはこの情報を知らないので情報発信ができるといいと思いました。
- 普段の生活の中では外国人と触れ合うことがなかったが、このような活動があることは素晴らしく、参加してみたいと思いました。
- 外国人が、日本語が上手でないことなどを恥ずかしく思わなくてもいいように地域で取り組んでいきたいです。
- 外国の方のお子さんの学校での問題や学力問題などもっと取り組んでほしいと思います。
- 日本人には当たり前のことが、そうではないということを外国の方の立場に立って考えることができるとよいと思います。
- 別府に住んでいる外国人のことや文化のちがいをもっと理解したり、子どもたちの知見を広げたりする意味でも取組みに参加していきたいです。
- お互いに文化を教えあい、知り合うきっかけが大切。楽しみながら取り組むことで壁をなくしていけると思います。
- せっかくやっている良い取り組みをもっとみんなに知らせる（発信する）ことに力を注ぐことも大切。知らずにいる人が多く、もったいないと思いました。
- 窓口を広くする工夫として、学校で案内するなど、子どもに知らせてみてはどうでしょうか。今日ここで話を聞いた人、皆がまずは、「べぷはち」にアクセスをするといいですね。



<班からの発表・全体交流>

○なかなかやろうと思っても出来ることではないので、このような活動をされていることは素晴らしいと思います。今回、この会に参加して自分自身と娘で参加していくこともありだなと思っています。私も自分が経験したことを通して何かのお役に立てていきたいと思っています。